

彫刻の世界 (20歳～現在)

堀田 正
HORITA Tadashi

—公募展—

20歳代(セメント像) 日展



髪 (190×80×60、セメント)
日展 第11回展 (昭和43年)



萌芽 (190×60×40、セメント)
改組 日展 第1回展 (昭和44年)



裸婦 (190×80×50、セメント)
日展 第3回展 (昭和46年)



朔風 (172×60×32、セメント)
日展 第6回展 (昭和49年)

全国選抜展



全国県展選抜展賞 文部大臣賞
大地 (セメント) (昭和47年)

30歳代(テラコッタ、石膏) 自由美術展



想い (石膏、1978年)



雪国の女 (石膏、1979年)



パンドラ (テラコッタ、1980年)



SUMMER-II (テラコッタ、1981年)

「私と彫刻」 堀田 正

私の彫刻の歴史は、彫刻を専攻した新潟大学3年の時、4月から10月まで制作した等身大裸婦像「髪」が日展に初入選したことから始まりました。4年次では新潟県展で奨励賞、そして日展の再入選となり、20歳代は日展と県展出品に明け暮れていました。東京の古本屋で手に入れたイタリア語(全く読めません)の作品集を何とか自分の作品スタイルにしたいと試行錯誤を重ねて、「力強く生きる新潟の女性」を表現しました。特にセメント像は私の大切な研究テーマでした。

その後、自分の子供を素直に表現し始めたことが「子供の世界」への導入でした。同時にテラコッタ制作の研究にも多くの時間を費やしました。教員の仕事をしながら、今日までコツコツと制作を続けてきたことが、このような作品群になりました。これからも地道に制作を続けていきたいと思っています。

—頭像—



タートルネックの少女 (テラコッタ)



ゆめみる少女 (テラコッタ)



ほおづえをつく少女 (テラコッタ)



ほく (ブロンズ)



春の風 (ブロンズ)



少女 (ブロンズ)



Sさん (ブロンズ)



ある医師 (石膏)



Kさん (ブロンズ)

—こどもの世界—



幼稚園 (55 × 40 × 60、テラコッタ、1984年)



ぼく (42 × 45 × 115、テラコッタ、1983年)



3才 (30 × 38 × 102、石膏、1986年)



春を待つ少女 (38 × 31 × 67、テラコッタ、2005年)



小さな宝もの (40 × 38 × 46)



小さな夢 (73 × 52 × 40、石膏、2001年)



プレゼント (40 × 50 × 102、1995年)



まきちゃん (35 × 54 × 130、2002年)



待つ (11 × 11 × 36、ブロンズ、1997年)

—こどもの世界—



春の月 (石膏)



思い出II (石膏)



おひるね (36×40×34、石膏、2004年)

—モニュメント—



春が来た(ブロンズ、長岡シンボルロード、1994年)



懐い(おもい) (ブロンズ、長岡空襲 60 周年記念、2005 年)



希望 (ブロンズ、十日町ベルナティオ、1999 年)



木の葉の旅 (ブロンズ、長岡シンボルロード、1992 年)



米百俵群像 2 体 (ブロンズ、長岡市千秋ヶ原、1991 年)